

「いいところ取りをするな」の教えが、今の原風景

NPO「太陽と緑の会」から、「かわら版 154号」が届いた。

障害者、市民と共にリサイクル作業所活動する「太陽と緑の会」の代表者 S さんが、長編療育ドキュメンタリー映画監督：柳沢寿男氏のことに触れていた。

S さんは30年程前に、知多市で障害者との活動で指導員をしていたが、その活動のドキュメンタリー映画「そっちやない、こっちや～コミュニテイケアへの道～（1982年）」を撮ったのが、柳沢監督。

S さんはその頃、この映画撮影が終われば仕事を辞めようと思っていたが、監督から厳しい口調で「いいところ取りをするな」と言われたとか。

この言葉の真意は、「撮影現場となった場所の指導員は勝手に辞められるが、そこに通う様々なハンデを持ったメンバーは、そうはいかない…」ということを理解し、監督の推薦もあり1年後に活動間もない徳島の「太陽と緑の会」に移り、今は全国的にもこの分野で注目される活動団体にまでリーダーとして充実・拡充してきた。

自分も柳沢監督とは西多賀病院での「ぼくの中の夜と朝（1971年）」、西多賀ワークキャンプでの「甘えることは許されない（1975年）」の撮影時に、あれこれ叱責・指導された。

学生たちや福祉の現場で働く若者に、「医者に診てもらって程心身を壊してまで仕事を続けなくてもいい。

だが、仕事上や職場の人間関係等の悩みからだけでは辞めないで欲しい。

君たちは辞めることでその状況から逃げ出すことは出来るが、障害児・者は、『障害のあることに疲れたから…』と、障害のあることを辞めることは出来ない。

そのことを、常に念頭に置くように！」と話している。

こう話している自分の原風景も、S さん同様に監督の教えが背景になっているのだろうなあ。

追伸：

柳沢監督について当 HP でも触れたことがあるので、次の記事を参照いただきたい。

HP「雑学 BN」の随想等関係（Ⅶ）、2009.03.13. 「お金にならないが、やらねばならないことがある…」。